

目 次

I	はじめに	1
II	提案の内容	1
III	本校の特別支援学級の概要	1
1	特別支援学級の種別と学級の名称、設置年月日	
2	卒業後の進路について	
3	本年度在籍生徒数内訳	
4	週時間表	
5	主な学習内容	
6	本年度の行事予定	
IV	指導の実際	4
1	本年度の状況	
2	本年度の課題	
3	授業づくりにおける工夫	
4	学級経営における工夫	
5	実践例 1 【国語科】	
6	実践例 2 【作業学習】	
V	今後の課題	11
1	成 果	
2	課 題	

「生徒一人ひとりの実態に応じた学級での取組」 ～授業づくりや学級経営の工夫～

提案者 宇都宮市立雀宮中学校教諭 鈴木光太郎

I はじめに

本校には、特別支援学級（知的障害）1学級と特別支援学級（自閉症・情緒障害）1学級が設置されており、中度から軽度の知的障がいや自閉症スペクトラム障がいのある生徒が在籍している。また、通常の学級にも学習や集団生活の面で不適応を示す生徒や自閉症スペクトラム障がい、A D H D等の傾向を示す生徒が在籍している。これらの生徒の中には、情緒面の安定や学習面・生活面での適応に支援を要する生徒も多いことから、特別支援委員会を中心とした校内支援体制のもと、特別な教育支援が必要な生徒に対して指導・支援を行っている。

本学級においては、生徒が中学校を卒業した後、社会に適応して生活するための社会性の基礎を身に付けることを目指し、以下の点を教育目標として日々の指導に当たっている。

- (1) 生活体験学習を行うことにより、社会の一員である自覚や協調性を養い、互いを認め合い、助け合うことのできる能力を育てる。
- (2) 生徒一人ひとりの能力・特性等を的確に把握し、自分の良さを發揮しようとする生徒、自分から積極的に社会に参加しようとする生徒の育成に努める。
- (3) 基本的生活習慣の定着に必要な知識・態度を身に付けさせ、あきらめずに粘り強く取り組む生徒の育成に努める。

II 提案の内容

- 1 授業づくりにおける工夫
- 2 学級経営における工夫
- 3 実践事例「絵本の読み聞かせ」・「紙コサージュ作り」

III 本校の特別支援学級の概要

- 1 特別支援学級の種別と学級の名称、設置年月日
 - ・特別支援学級（知的障害）7組 昭和57年4月1日設置
 - ・特別支援学級（自閉症・情緒障害）8組 平成21年4月1日設置
- 2 卒業後の進路について
 - ・平成28年度 青葉高等学園：3名 富屋特別支援学校：1名
 - ・平成29年度 青葉高等学園：2名（内1名は通常の学級から）
富屋特別支援学校：3名
 - ・平成30年度 青葉高等学園：5名 富屋特別支援学校：1名

3 本年度在籍生徒数内訳

		男 子	女 子	合 計	学年合計
1 年	知的	2	0	2	3
	自・情	1	0	1	
2 年	知的	1	0	1	4
	自・情	3	0	3	
3 年	知的	0	0	0	0
	自・情	0	0	0	
合 計	知的	3	0	3	7
	自・情	4	0	4	
男女別		7	0	7	

4 週時間表

(1) 特別支援学級（知的障害）7組

	月	火	水	木	金
1	英語	英語	作業学習	美術	作業学習
2	技術・家庭	保健体育	保健体育	数学	作業学習
3	技術・家庭	美術	国語	生活単元学習	音楽
4	数学	作業学習	学級活動	国語	道徳
5	国語	数学	社会	総合的な学習の時間	数学
6	理科	国語		総合的な学習の時間	生活単元学習

(2) 特別支援学級（自閉症・情緒障害）8組

	月	火	水	木	金
1	英語	英語	作業・自立活動	美術	作業・自立活動
2	技術・家庭	保健体育	保健体育	数学	作業・自立活動
3	技術・家庭	美術	国語	生単・自立活動	音楽
4	数学	作業・自立活動	学級活動	国語	道徳
5	国語	数学	社会	総合的な学習の時間	数学
6	理科	国語		総合的な学習の時間	生単・自立活動

※国語、数学は習熟度別A・Bの班編成で、班ごとに指導者が1名ずつ担当する。その他の時間は一斉授業で、教員2名のT・Tで指導する。

※生徒の実態に応じて通常学級との交流及び共同学習を行う（授業、委員会、学校行事等）。

※□は教科担任による授業。

5 主な学習内容

- ・国語：物語文、説明文、漢字、作文、文法、書写、読み聞かせ 等
- ・社会：日本の地理・歴史、世界の地理・歴史、地図の見方、公民 等
- ・数学：四則計算、小数、分数、時間、お金、表とグラフ、概数、図形 等
- ・理科：花や虫の観察、動物、人体、電流、磁石、地震、天気、燃焼 等
- ・英語：アルファベット、英語の歌、英単語、会話、時間、季節と曜日 等
- ・音楽：校歌、季節の歌、合唱、アルトリコーダー、映画音楽、合奏 等
- ・美術：学級旗制作、スクラッチボード、うちわの装飾、静止画 等
- ・保健体育：体力作り、バドミントン、卓球、マット運動、健康と環境 等
- ・技術・家庭：木工、パソコン、調理実習、パッチワーク、食生活 等
- ・道徳：集団生活ときまり、思いやり、命の大切さ、コミュニケーション 等
- ・総合的な学習の時間 1年生：冒険活動教室、働く人に学ぶ
2年生：職場体験学習、立志式
3年生：修学旅行、進路学習
- ・生活単元学習：季節の行事、校外学習、サマースクール、合同宿泊学習 等
- ・作業学習：紙コサージュ作り、農園芸、空き缶つぶし 等
- ・自立活動：作業学習や生活単元学習、道徳等で下記内容を実施
 - 身体の動き・日常生活に必要な基本動作に関すること
 - ・作業に必要な動作と円滑な遂行に関するこ
 - ・コミュニケーション・コミュニケーションの基礎的能力に関するこ
 - ・状況に応じたコミュニケーションに関するこ

「特別支援学校小・中学部学習指導要領 第7章 自立活動」より

6 本年度の行事予定

(1) 特別支援学級の行事（合同行事）

行 事 名	期 日	場 所
校外学習	5／30(水)	日光東照宮
サマースクール	7／24(火)～7／26(木)	市総合福祉センター
宿泊学習	9／26(水)～27(木)	とちぎ海浜自然の家
スポーツ交歓会	11／16(金)	宇都宮市体育館

(2) 本校通常の学級との交流行事

行 事 名	期 日	場 所
3年修学旅行	6／29(金)～7／1(日)	京都・奈良方面
2年スキー教室	1／22(火)～1／23(水)	日光湯元温泉スキー場
1年冒険活動教室	10／17(水)～19(金)	市冒険活動センター
体育祭	6／16(土)	本 校
文化祭	10／27(土)	本 校
2年社会体験学習	11／5(月)～11／9(金)	各事業所

IV 指導の実際

1 本年度の状況

- ・知的な遅れのある生徒が7組に3名、8組に1名在籍している。
- ・知的な遅れのない生徒が8組に3名在籍しているが、生徒それぞれに学習面での遅れがある。加えて、3名の間でも学習の習熟度に差がある。
- ・作文や発表など、自分の気持ちや考え、意見を表現することが苦手な生徒が多い。
- ・生徒の大半が、小学校時に交流先の学級での授業に複数の教科で参加しており、中学校においても交流先での授業を希望している。
- ・卒業後の進路については、ほとんどの生徒が宇都宮青葉高等学園への進学を希望しているが、知的な遅れのない生徒については、特別支援学校の対象とはならないため、通常の高等学校やサポート校等に進学するための準備が必要となっている。
- ・学級を担当する教員数が、7組1名（専門教科：保健体育）、8組1名（専門教科：国語）の2人体制となっている。

2 本年度の課題

- ・宇都宮青葉高等学園への進学を希望している生徒の進学に備えた、小学校4年生程度の学力の定着、面接や作業に対する技能の向上。
- ・知的な遅れのない生徒の進学に備えた、通常の教育課程に準じた学習指導の実施。
- ・漢字の読み書きや計算など、基礎学力の定着。
- ・文章や談話による表現力の向上。
- ・集団生活におけるコミュニケーションスキル向上やルール・マナーの理解。
- ・担任の専門教科以外の教科における当該学年の学習内容に準じた学習機会の確保。

3 授業づくりにおける工夫

(1) 習熟度別の授業の実施（国語・数学）

班	メンバー	知的な遅れ	学習範囲
A 班	8組3名	なし	小学5・6年～中学1年
B 班	7組3名、8組1名	あり	小学4年程度

※各班とも、各生徒の学習進度に応じ、一斉指導やプリント学習などによる個別指導を適宜行う。

(2) 教科担任による授業の実施

- ・社会、英語、美術、音楽については、教科担任による中学校の学習内容に準じた授業を実施。

教科	教科担任	週当たりの担当時数
社会	社会科教諭	1時間
英語	音楽科教諭（英語科免許保有者）	2時間（内1時間はA L T）
美術	美術科教諭	2時間

(3) 道徳におけるコミュニケーションスキルの育成とルールやマナーの指導

- ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターとなりのとなり、バースデーライン、アサーショントレーニング等
- ルールやマナーの必要性やルールとマナーの違いについて
スポーツのルール、公共機関や交通機関利用時のマナー等
→保健体育の授業や合同行事等で学んだことを実践

(4) 作業学習におけるコミュニケーションスキルの向上と作業能力の育成

- 作業開始時や終了時に目標や注意点の確認、本時の振り返りのための打合せを、生徒主体で実施する。
- 作業中の確認や報告、質問などの機会を持たせることで、場に応じた言動について学ぶ。
- ハサミや鎌、一輪車等、作業種目に応じた道具を使うことで、手先の巧緻性の向上を図るとともに、道具の扱い方や注意点について学ぶ。

(5) 生徒の実態に応じた交流及び共同学習の実施

- 集団での活動が不足してしまうので、音楽、保健体育については全員が交流及び共同学習を交流先の学級で行う。
- 知的な遅れのない生徒は、社会、理科、英語についても可能な範囲で交流先の授業に参加させるが、学習の遅れが顕著な国語、数学については学級で行う。

【交流及び共同学習の状況】

学級	生徒番号	日課の交流				各教科									道徳	総合	特別活動			
		給食	清掃	朝・帰りの会	休み時間	社会	理科	英語	音楽	美術	体育	育家	技術	学級活動	生徒会活動	学校行事	部活動			
7組	1								○		○			△	△		○	○		
	2						○		○		○			△	△		○	○		
	3						○		○	○	○	○	○	△	△	○	○	○		
8組	1						○	○	○		○	○		△	△		○	○		
	2						○		○		○			△	△	○	○	○		
	3					○	○		○		○			△	△	○	○	○		
	4					○	○		○	○	○	○	○	△	△	○	○	○		

※△については、活動内容に応じて参加する。

【生徒A（7組）の時間割】

	月	火	水	木	金
1	英語	英語	作業	音楽	作業
2	技・家	保体	保体	数学	作業
3	保体	美術	国語	生单	音楽
4	数学	作業	学活	国語	保体
5	国語	数学	社会	保体	数学
6	理科	国語		総合	生单

【生徒B（8組）の時間割】

	月	火	水	木	金
1	保体	英語	英語	美術	英語
2	技・家	英語	理科	数学	自立活動
3	技・家	理科	国語	自立活動	音楽
4	数学	自立活動	音楽	国語	理科
5	国語	数学	社会	英語	保体
6	理科	国語		保体	自立活動

※□が交流先の学級での授業。

(6) 学校行事における交流及び共同学習の実施

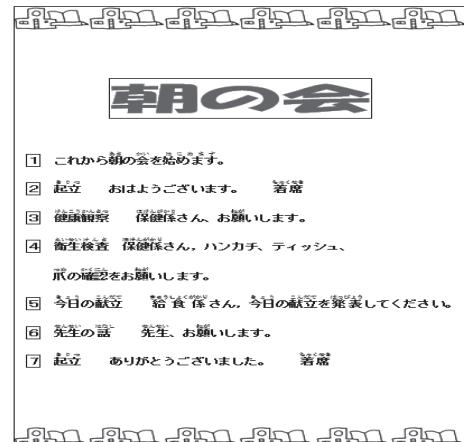
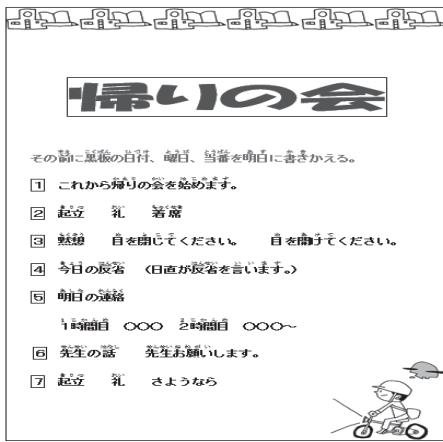
- ・当日のみではなく、練習から交流先の学級での活動に参加する。
- 体育祭：雀中そーらん、学年種目、男女別種目、個人走
文化祭：合唱コンクール

4 学級経営における工夫

(1) 朝の会・帰りの会での発表の機会

- ・係による発表や確認（朝）

- ・1日の反省の発表（帰り）



(2) 一人一役活動

- ・全員に活動の機会が毎日ある係を割り当てる。
- ・係の仕事は、発表や他の生徒とのやり取りが必要な内容のものとする。

学級の係

係名	仕事の内容
学級委員長	
給食 (給食委員)	衛生検査票の記入
	献立の記入・発表
情報 (図書委員)	スタンダードダイアリーのチェック
	学級ボックスの回収
学習	家庭学習のチェック
保健	健康観察簿・出欠黒板の記入
衛生	つめ・ハンカチ・ティッシュ・歯みがきチェック

教科担当係

教科名	担当の先生
国語	先生 先生
数学	先生 先生
社会	先生
理科	先生
英語	先生
音楽	先生
美術	先生
体育	先生
技術	先生
家庭	先生
学活・道徳	先生
作業・生單	先生

仕事内容 ★担当の先生に授業のお願いに行く。
 ★次の日の授業内容を担当の先生に聞いて。
 連絡ボードに書く。
 ★帰りの会で連絡する。

(3) 話合い活動

- ・学級委員の司会進行による話合いの機会を積極的に導入する。

学級目標決め

体育祭の学級旗のデザイン決め 等



5 実践例 1 【国語科】

- (1) 題材名「絵本の読み聞かせ」
- (2) 題材設定の理由

本題材は、習熟度別の授業である国語B班の生徒を対象に行っている活動で、国語の授業の開始時に実施している。対象となる生徒は、知的な遅れのある生徒で、中学校卒業後の進路に宇都宮青葉高等学園を挙げている。そのため、受検にあたっては、学力だけでなく、面接や作業的な課題に対する技能が求められるが、自分の気持ちや考え、意見を人前で表現することが苦手な生徒が多い。

そこで、人前で話す経験を積むこと、感想を相手に伝える機会を持つことができる活動として、絵本の読み聞かせの活動を導入することとした。

(3) 活動の目標

- ① 絵本の朗読を通して、人前で話すことに慣れる。
- ② 感想を伝える経験を通して、自分の気持ちや考えを話すことに慣れる。

(4) 活動の展開

- ① 生活単元学習の読書の時間に、図書室で自分の読む絵本を探して借り、読みの練習をする。
- ② 国語の授業の開始時にその日の担当生徒が他の生徒の前に立ち、絵本を見せながら朗読する。
- ③ 読み手は、その絵本を選んだ理由を話す（朗読の前に話しても良い）。
- ④ 聞き手が一人ずつ感想を発表する。

(5) 活動上の留意点

- ・その絵本を通じて聞き手に伝えたいことがある絵本、漢字や文字数などで自分が読むことができる絵本を選ぶ。
- ・読み手は、本の意味することが伝わるように、感情をこめて読む。
- ・区切るところは区切って読み、聞き手に伝わりやすいように読む。
- ・聞き手は、話し手の話し方を参考にして自分自身の読み方の改善を図る。
- ・感想は「面白かった」「良かった」等の一言だけでなく、どの部分が面白かったのかなど、その感想を持ったところも挙げて発表する。
- ・指導者は、棒読みは聞き手も面白くないことをその都度伝える。



6 実践例 2 【作業学習】

- (1) 題材名「紙コサージュ作り」
- (2) 題材設定の理由

作業学習の内容を決めるにあたっては、「作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するもの（特別支援学校学習指導要領解説：各教科等編）」という点をふまえ、年間を通してひとつのことに根気強く取り組む、細かな作業をあきることなく持続的に行う、活動を通じ達成感を感じることができる学習として本題材を設定した。

紙コサージュ作りは、完成までを一人で行ったり、分業で行ったりすることができ、見通しを持って取り組むことができる活動で、完成した作品を「卒業生を送る会」で使ってもらうことにより、作業を行う目的や意欲を持たせることができる活動である。そのため、道具や材料を扱う基本的な技能を習得するだけでなく、作業を通して、働くことへの関心や意欲、態度を養うことができると考える。

(3) 題材の目標

- ① 決められた作業を一人で行うことができる。
- ② 決められた時間は作業に集中し、落ち着いて行うことができる。
- ③ 作業工程を理解し、丁寧に作品を仕上げることができる。
- ④ 指示や決まりを守り、安全に留意して作業を進めることができる。

(4) 題材の指導計画

- | | |
|---------------------|-----------|
| ① 導入（計画、作業の分担、きまり等） | 4月 |
| ② 作業工程の理解、道具の扱い方の修得 | 4～5月 |
| ③ 製作（紙コサージュ作り） | 6～3月 … 本時 |
| ④ 反省会 | 3月 |

(5) 本時の指導

- ① 題材名「紙コサージュの製作」
- ② 本時の目標
 - ・活動時間内は持続して作業に取り組むことができる。
 - ・作業工程を覚え、作業工程に応じた用具を安全に使うことができる。



③ 展開

	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点	準備物
導入	1 あいさつ 2 作業内容と予定の確認	・当番の号令であいさつをする。 ・本時の作業の内容と作業の時間を確認する。	・作業学習開始を促す言葉かけをする。 ・時計で作業終了、片付け等の時刻を確認する。	ホワイトボード (掲示物) 時計 作業学習ノート
展開	3 準備 4 作業開始 5 製作	・机や長机などに道具や材料を移動させる。 ・前の机から材料や用具を運び、グループの机上に並べる。 ・着席し、どの作業工程から作業を始めるか、各自が教師に報告し、作業を開始する。 作業工程 1 花びら作り ①型どり ②型抜き ③切りこみ ④丸め ⑤しわよせ 2 芯作り ①切りこみ ②丸め ③ボンド付け 3 はりあわせ 4 ピン付け	・全員で協力して行うように促す。 ・重いものや大きいものを運ぶときは、安全に十分注意させる。 ・前時までの作業を振り返らせ、本時の活動への意識付けを図れるよう、言葉かけに配慮する。 ・手元を良く見て、下書き線の通りにハサミで切り抜くよう指示する。 ・和紙を持っている手の方を動かして花びらの部分を切るよう助言する。 ・芯作りの切りこみでは、一定の間隔で細く切りこむように注意させる。 ・花びらをはり合わせるときには、ボンドのつけすぎに注意させる。 ・ハサミを使用する際には安全に十分注意させる。 ・一つの作業工程を終えるごとに、確認のための報告をさせる。	ハサミ ものさし 色鉛筆 ボンド 型紙 丸め・しわよせ棒 (自作) クリップ 和紙
まとめ	6 後片付け 7 教師の話 8 あいさつ	・使った用具類や机を所定の所に片付ける。 ・教師の話を聞き、本時の活動を振り返る。	・全員で協力して行うようにさせる。 ・一人ひとりに本時の出来高などを確認させる。	作業学習ノート

V 今後の課題

1 成 果

- (1) 日ごろからの積み重ねで、進路指導における面接指導や作文の指導にも自信をもって取り組むことができた。
- (2) 相手の気持ちやその場の状況に応じた言動が取れるようになり、生徒間のトラブルが減少した。

2 課 題

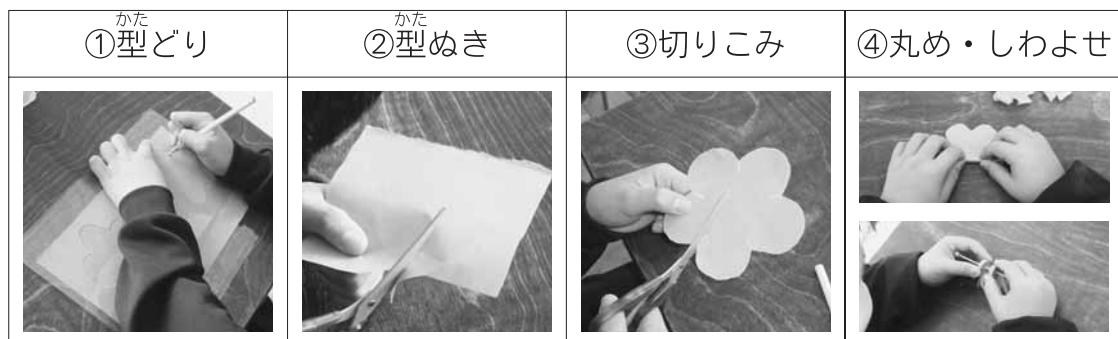
- (1) 各生徒の進路実現に向けた学習内容の精選、年間指導計画の見直し
- (2) 通常の教育課程に準じた学習に対しての評価・評定の在り方
- (3) 特別支援学校高等部やサポート校等、多様な進路先についての情報収集

さぎょう こころえ 作業の心得 さぎょう まも —作業をするとき守ること—

- 1 作業がはじまる時刻に遅れないようにする。
- 2 あいさつや返事は、大きな声で元気よくする。
- 3 質問や報告は、はっきりと話す。
- 4 きめられた仕事（準備・片づけ、作業、「作業学習ノート」のまとめ）を一生懸命する。
- 5 作業中は、よけいな話やよそ見をしない。
- 6 作業中は、手を休めない。
- 7 作業中の姿勢に気をつける。
- 8 準備や片づけをきちんとする。
- 9 道具や材料をていねいにあつかう。
- 10 ていねいな言葉づかいをする。

紙コサージュ作り <作業工程>

1 花びら作り



2 しん作り



3 はり合わせ



4 仕上げ



さぎょうがくしゅう 作業学習ノート

さぎょうしゅもく
作業種目

平成	年	月	日	曜日	氏名	
----	---	---	---	----	----	--

1 今日の目標

こじんもくひょう 個人目標	
できだか 出来高	(まい こ) (枚・個)

2 振り返り

個人目標	よくできた	できなかった	
じゅん び 準備	よくできた	言われてできた	できなかった
かたづ 片付け	よくできた	言われてできた	できなかった
さ ぎょう 作業	出来高	(まい こ) (枚・個)	
よくできた：◎ 言われて できた：○ できなかった：△	むだ 話をしない て やす 手を休めない へんじ ほうこく 返事や報告	よそ見をしない しせい 姿勢に気をつける ことば 言葉づかい	
反省			